

オバマ大統領の再選戦略と百年に一度の信用津波(大手金融機関の破綻の連鎖)世界経済を大恐慌の縁にまで追いやったリーマンショックから、早3年、戦後最大の経済不況は、何とか順調に回復して来たかに見えていましたが、失業率の更なる悪化(9.1%)、住宅価格の続落、物価高騰、家計の過剰債務などと相俟って、多くの庶民が現在、悲鳴をあげています。経済や雇用情勢が悪いままで再選した大統領は最近では居ませんので、オバマ大統領にとってはここ半年で、人気挽回政策を実行しなければならないのですが、経済のダブルディップ(Double Dip)にならないことを、現在はひたすら耐えている感があります。(一方ではきっと景気回復の火種を探しているのです。) この数ヶ月がいろいろな面での Turning Point かもしれません。日米とも、大型減税政策による消費需要の喚起が一番必要な時なのですが、机上の知識だけに優れた財務官僚が、どちらも国の財政を牛耳っている限り期待できないのが残念です。レーガノミクスのような強い経済政策が望まれますが、このままだと米国版【失われた10年】の再来となるかもしれません。不況下の物価高(Stagflation)となると最悪です。

Despite the ongoing recession in the housing market, there is no serious discussion about how to resolve the crisis. Despite a 9% unemployment rate, there is no serious discussion about how to speed up the job market recovery. And despite clear signs of economic weakness, there is no let-up in the pressure for quick monetary and fiscal tightening. The U.S. needs to set a clear path to debt sustainability, but the timing of tightening should be dictated by the strength of the recovery.